2023年3月期（2022年度）
第1四半期決算補足説明資料

2022年8月4日

日本タングステン株式会社

目次

2022年度第1四半期業績概要 及び 業績予想の修正

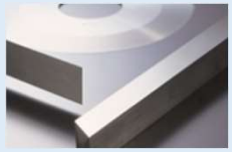
1. 当社の注力市場と事業セグメント
2. 今回発表のポイント
3. 連結業績の概要
4. 主な経営指標
5. セグメント別の状況
6. 財務の状況（連結）
7. 今後の見通しと業績予想の修正
8. 日本タングステングループ2024中期経営計画

参考資料

1. 業績の推移（連結）

2022年度第1四半期業績概要
及び
業績予想の修正

１．当社の注力市場と事業セグメント

注力する市場	事業セグメント別の主な商品	
	機械部品事業	電機部品事業
半導体・電子部品市場	ハードディスクドライブ(ＨＤＤ)用磁気ヘッド基板	プラズマ電極
自動車部品市場	二軸押出機用部材	ＥＶ用接点 電装部品溶接用の抵抗溶接電極
産業用機器・部品市場	 産業用設備向けの耐摩耗部材 二軸押出機用部材	ブレーカー用電気接点
衛生用品機器・医療用部品市場	ＮＴダイカッター	医療関連カテーテル用タングステンワーヤー製品

２．今回発表のポイント

2023年3月期（2022年度）第1四半期決算の総括

・第１四半期の業績は、連結･個別ともに増収増益。
・売上高及び損益ともに業績予想値を上回りながら推移

注力市場の概況

・半導体・電子部品市場　：引き続き好調に推移
・産業用機器・部品市場　：工作機械等の設備投資需要に支えられ好調に推移
・自動車部品市場　：半導体不足による需要の不安定さが続くものの、底堅く推移
・衛生用品機器・医療用部品市場：衛生用品機器市場は、国内外向け共に低調に推移

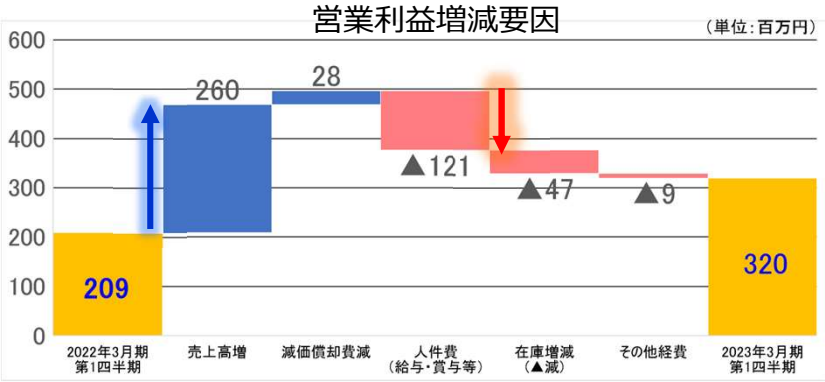
今後の見通しと業績予想の修正

・今後の見通し　：売 上 高…直近の受注状況から現状の趨勢を維持するものと想定
損　　益…原材料価格高騰の影響は、現時点の相場の状況により、当初の想定から
やや軽減されると見込む。
経済状況…先行き不透明（ロシア･ウクライナ情勢長期化、為替変動、感染症リスク）
・業績予想の修正：第１四半期の業績及び今後の見通しを踏まえ、2023年３月期第２四半期及び通期の業績を連結、個別共に上方修正。
前連結会計年度に対し、減益予想から増益予想となる。
・配当金予想　：据え置き　（今後の地政学的な影響や経済環境及び当社グループの業績を注視しながら、修正すべき時点で速やかに開示予定）

3．連結業績の概要

（単位：百万円）

	2022年3月期 第1四半期	2023年3月期 第1四半期	前年同四半期比 増減額	前年同四半期比 増減率（%）
売上高	2,883	3,330	446	15.5
営業利益	209	320	110	53.0
経常利益	281	423	142	50.5
親会社株主に帰属する四半期純利益	218	291	72	33.2



連結売上高	33億3千万円	（前年同四半期比 15.5%増）	■前年同四半期比15.5%の増収 ・半導体･電子部品市場 ： 引き続き好調に推移 ・産業用機器･部品市場 ： 工作機械等の設備投資需要に支えられ好調に推移 ・自動車部品市場 ： 半導体不足による需要の不安定さが続くものの、底堅く推移 ・衛生用品機器･医療用部品市場：衛生用品機器市場は、国内外向け共に低調に推移
営業利益	3億2千万円	（ 同 53.0%増）	■前年同四半期比53.0%の増益 ・連結売上高の増加による利益押し上げ ・原材料価格高騰の影響：前連結会計年度中に購入した原材料の割合が比較的大 供給制限や輸入調達コストの増加等の物流面の支障なし ⇒ 当初想定した原価率の大幅な悪化まで至らず ・製造経費並びに販管費の圧縮
経常利益	4億2千3百万円	（ 同 50.5%増）	・営業利益の増益要因、為替差益の発生による営業外収益の増加等により増益
親会社株主に帰属する当期純利益	2億9千1百万円	（ 同 33.2%増）	・法人税、住民税及び事業税が増加も、前年同四半期比33.2%の増益。

４．主な経営指標

	2019年3月期 第1四半期	2020年3月期 第1四半期	2021年3月期 第1四半期	2022年3月期 第1四半期	2023年3月期 第1四半期
売上高営業利益率	10.7	5.5	1.7	7.3	9.6
自己資本四半期純利益率（ROE）	2.8	1.3	0.8	2.2	2.8
1株当り四半期純利益	108.76	53.16	31.92	90.90	120.91

コロナ禍以前

- 2018年度（2019年3月期）第1四半期の業績好調時水準まで回復
- 売上高営業利益率は2021年度第1四半期比2.3ポイント上昇し、9.6%へ良化
- 自己資本四半期純利益率(ROE)は2.8%となり、2018年度第1四半期と同等の水準
- 1株当たり四半期純利益は120円91銭と高い水準へ増加

5．セグメント別の状況

（単位：百万円）

		2022年3月期 第1四半期	2023年3月期 第1四半期	対前年比 増減額	対前年比 増減率（%）
機械部品事業	売上高	1,562	1,908	346	22.2
	営業利益	255	294	39	15.5
電機部品事業	売上高	1,324	1,425	100	7.6
	営業利益	81	160	78	96.9
調整額	売上高	△3	△3	0	―
	営業利益	△127	△134	△7	―
全社	売上高	2,883	3,330	446	15.5
	営業利益	209	320	110	53.0

※売上高はセグメント間の取引を含んでおり、営業利益は全社費用等調整前の金額

機械部品事業

売上高	19億8百万円（前年比22.2%増）
営業利益	2億9千4百万円（前年比15.5%増）

	2022年3月期 第1四半期	2023年3月期 第1四半期
売上構成比	54.1%	57.3%
営業利益率	16.3%	15.4%

電機部品事業

売上高	14億2千5百万円（前年比7.6%増）
営業利益	1億6千万円（前年比96.9%増）

	2022年3月期 第1四半期	2023年3月期 第1四半期
売上構成比	45.9%	42.7%
営業利益率	6.2%	11.3%

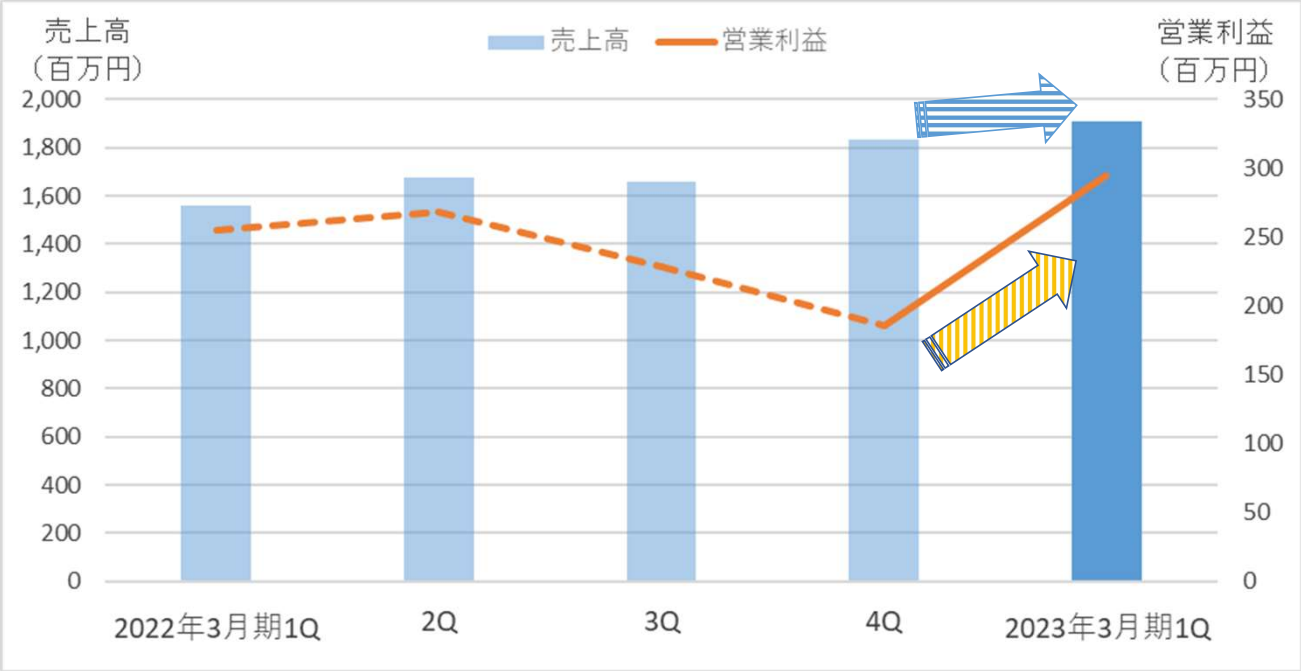
機械部品事業、電機部品事業ともに増収増益

5．セグメント別の状況　機械部品事業

1．四半期毎の業績推移

（単位：百万円）

		2022年3月期 1Q	2022年3月期 2Q	2022年3月期 3Q	2022年3月期 4Q	2023年3月期 1Q
機械部品事業	売上高	1,562	1,678	1,657	1,833	**1,908**
	営業利益	255	268	228	185	**294**



【売上高】

- 増収傾向を維持

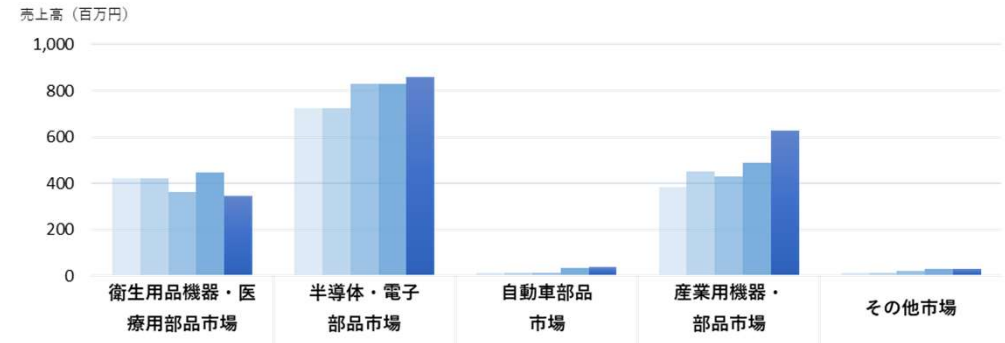
衛生用品機器･医療用部品市場が低調な中、半導体･電子部品市場や産業用機器･部品市場が好調を継続し増収。

【営業利益】

- 売上高の増加により利益額も増加傾向で推移

（2022年3月期第4四半期は修繕費等の増加により他の四半期と比較し減益）

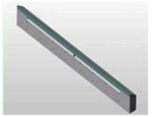
2．注力市場別業績・主要商品の状況



	衛生用品機器・医療用部品市場	半導体・電子部品市場	自動車部品市場	産業用機器・部品市場	その他市場
2021.1Q	421	726	15	382	12
2021.2Q	422	724	14	449	14
2021.3Q	362	828	12	430	20
2021.4Q	447	829	35	490	28
2022.1Q	347	859	40	626	30

NTﾀﾞｲｶｯﾀｰ

HDD用
磁気ﾍｯﾄﾞ
基板



超硬長尺
製品

二軸混錬
押出機用の
金属部品

※売上高はセグメント間の取引を含んでおりません。

注力市場の主要な商品の状況

【半導体・電子部品市場】

情報関連機器のハードディスクドライブ（HDD）用磁気ヘッド基板

データセンター等で使用される大容量ＨＤＤの需要が引き続き好調に推移し、増収

【産業用機器・部品市場】

塗付工具用として使用される超硬長尺製品

二次電池や液晶ディスプレイの需要の高まりにより、増収

二軸混錬押出機用の金属部品

中国での需要が好調であり、増収

【衛生用品機器・医療用部品市場 】

NTダイカッター

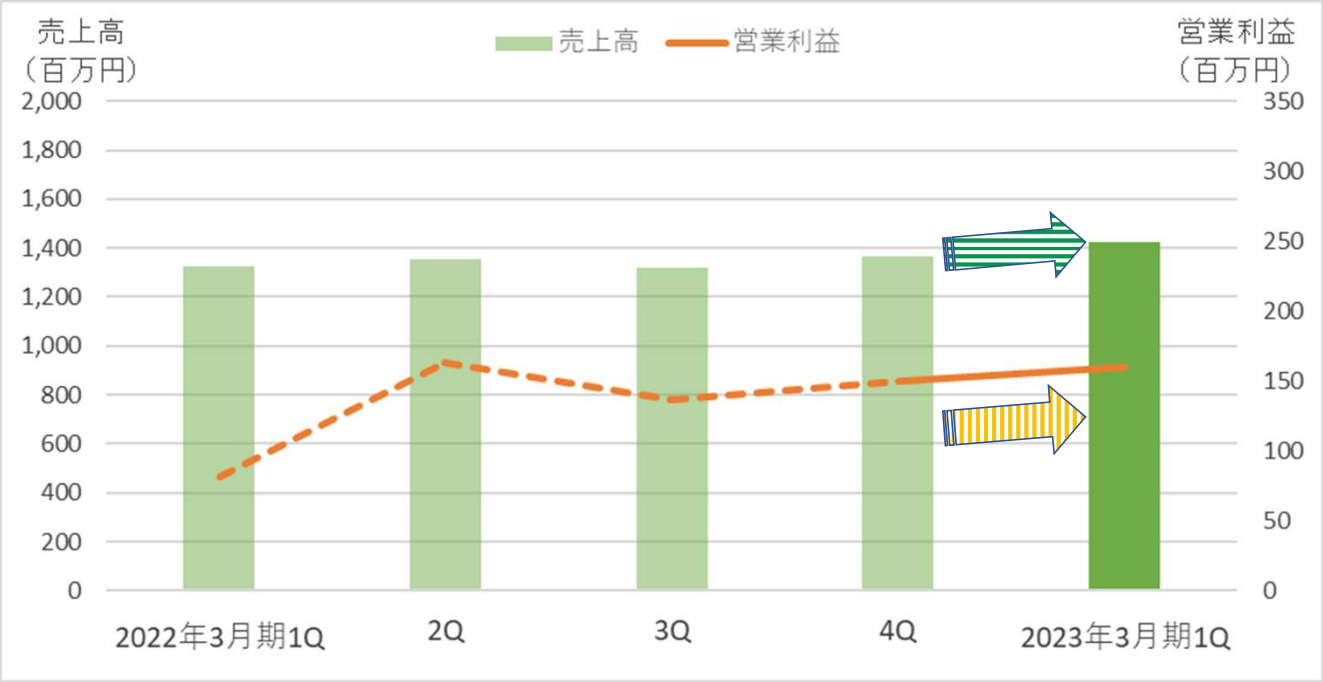
国内外共に顧客の設備投資需要が伸び悩み、減収

5．セグメント別の状況　電機部品事業

1．四半期毎の業績推移

（単位：百万円）

		2022年3月期 1Q	2022年3月期 2Q	2022年3月期 3Q	2022年3月期 4Q	2023年3月期 1Q
電機部品事業	売上高	1,324	1,356	1,317	1,368	**1,425**
	営業利益	81	162	136	149	**160**



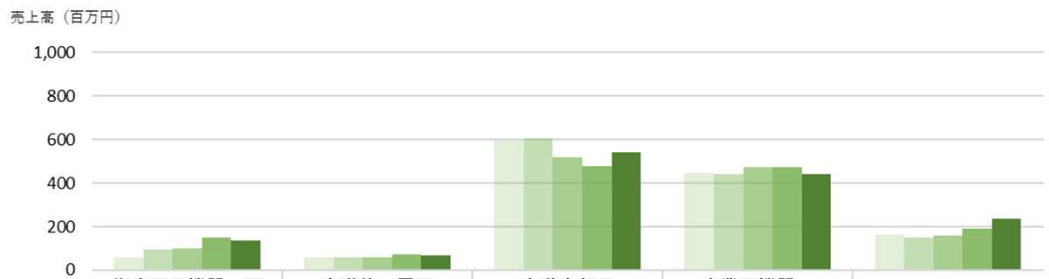
【売上高】

- 自動車部品市場は半導体不足による不安定さが続く中、2021年度下期が減収傾向であったが、当第1四半期で復調に転じ、増収

【営業利益】

- 主に自動車関連の接点・電極製品の回復・伸長により、安定した利益を確保。

2．注力市場別業績・主要商品の状況



	衛生用品機器・医療用部品市場	半導体・電子部品市場	自動車部品市場	産業用機器・部品市場	その他市場
2021.1Q	60	60	595	444	162
2021.2Q	94	61	605	443	149
2021.3Q	100	59	521	474	161
2021.4Q	151	71	479	474	191
2022.1Q	135	69	541	441	237

医療関連ｶﾃｰﾃﾙ用ﾀﾝｸﾞｽﾃﾝﾜｲﾔｰ製品

EV用接点

抵抗溶接電極

ﾌﾞﾚｰｶｰ用電気接点

※売上高はセグメント間の取引を含んでおりません。

注力市場の主要な商品の状況

【自動車部品市場】

ＥＶ用接点

半導体不足による自動車生産の不安定さへの懸念はあるものの、増収を継続し底堅く推移

抵抗溶接用電極

在庫調整等で前年同四半期比では若干の減収

【産業用機器・部品市場】

産業用設備向けのブレーカー用電気接点

上海ロックダウンを見据えた顧客の在庫積み増しによる調整要因もあり、若干の減収

【衛生用品機器・医療用部品市場 】

医療関連カテーテル用タングステンワイヤー製品

顧客の増産が継続しており増収

６．財務の状況（連結）

（単位：百万円）

	2022年3月期	2023年3月期 第1四半期	対前年比 増減額
総資産	16,446	17,105	658
負債	5,709	6,160	450
純資産	10,736	10,945	208

主な経営指標

	2022年3月期	2023年3月期 第1四半期
自己資本比率（%）	65.2	63.9
1株当たり純資産（円）	4,447.51	4,529.68

項目 (　)は前連結会計年度末との増減	主な増加要因	主な減少要因
総資産　171億5百万円 (6億5千8百万円増)	現預金　＋175 売上債権＋381 棚卸資産＋143	固定資産▲31
負債　61億6千万円 (4億5千万円増)	仕入債務＋240 固定負債(繰税負債・ﾘｰｽ債務)＋67	未払法人税等▲196 賞与引当金▲155
	第１四半期末の賞与引当金計上額　316百万円	
純資産　109億4千５百万円 (2億8百万円増)	利益剰余金　＋121 為替換算調整勘定　＋81	－

７．今後の見通しと業績予想の修正

今後の見通し

先行きは不透明な状況が続くものと見込まれる（ロシア・ウクライナ情勢の長期化、為替の動向、感染症リスクの継続等）ものの、直近の需要動向から当初想定した業績予想より改善すると想定。

売上高：直近の受注状況から現状の趨勢を維持するものと想定。
損　益：原材料価格高騰の影響 ⇒現時点の相場の状況により、当初の想定からやや軽減されると見込む。

業績予想の修正

2023年３月期第２四半期及び通期の業績予想を、連結･個別共に修正。
前連結会計年度と比較し、増収増益予想となる。

2023年３月期の連結業績予想（2022年４月１日～2023年３月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	6,500	10.8	540	11.7	680	9.8	460	3.6	190.73
通期	12,700	5.5	1,050	14.9	1,260	1.7	900	3.4	373.17

※詳細は、本日（2022年８月４日）公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」を参照

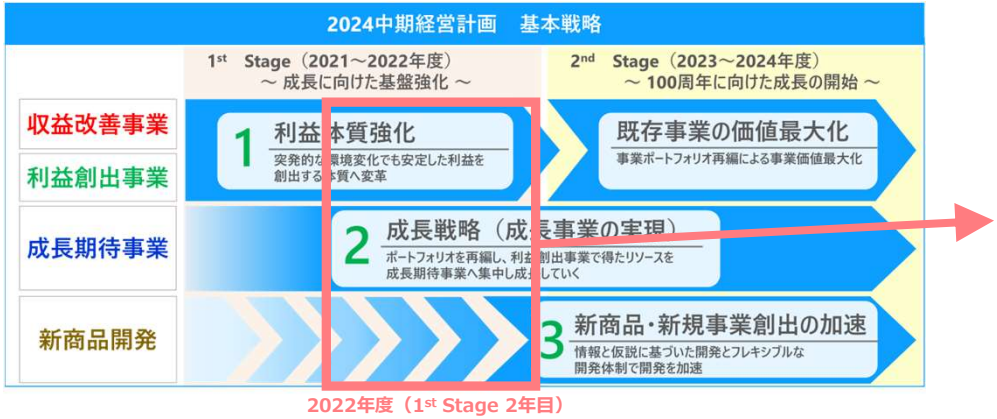
配当金について

今後の地政学的な影響や経済環境及び当社グループの業績を注視しながら、修正すべき時点で速やかに開示することとし、現時点では2022年５月20日に公表した配当金予想を据え置く。

8．日本タングステングループ2024中期経営計画

基本戦略 及び 1st Stage 2年目の取り組み

成長に向けた事業基盤を固めるため、利益体質強化の取組み継続を中心に推進。また、サステナビリティ活動も加速。



基本戦略項目	2022年度（1st Stage 2年目）の取り組み
1 利益体質強化	・突発的な環境変化に対応できるよう、生産性の向上に注力 ・間接部門の業務効率化、生産性指標化への取り組み
2 成長戦略（成長事業の実現）	・MAZELLOY（マゼロイ）の生産性・販売強化（リソース集中） ・事業成長の実効性強化の取り組み（仮説と検証）推進
3 新商品・新規事業創出の加速	・実現可能性の確度向上に取り組み、新商品・新規事業創出の加速につなげる
社会価値向上に向けて	・サステナビリティ活動の全社的推進に向けた委員会を立ち上げ、マテリアリティ解決への推進機能の充実をはかる

計数計画 （2021年度の実績と今後の計画）

2021年度は順調に推移。2022年度は、営業利益・営業利益率・ROEが、2024年度目標に達する見込み

	2020年度実績	2021年度 計画	2021年度 実績	2021年度 まとめ	2022年度 計画(2022.8.4時点)	2022年度 要旨	2024年度目標
連結売上高	98億円	110億円	120億円	・コロナからの回復を経て、大幅に増収増益 ・ROEは8%超となり、最終年度目標に向け順調に推移 ・100円を超える配当実施	127億円	・2022年8月4日に業績予想の上方修正を公表し、業績は2024年度目標値に近づく想定 ・2nd Stageに向けた利益体質強化の素地固めを推進	130億円
営業利益	2.7億円	7億円	9億円		10億円		10億円
営業利益率	2.8%	6.3%	7.6%		8.2%		8%
ROE	△0.6%	5.6%	8.4%		8.5%		8%
研究開発費	2.6億円	－	3.1億円		14億円/4年　（3.5億円/年）		
設備投資額	3.2億円	－	2.6億円		32億円/4年　（8億円/年）		
株主還元	40円	80円	120円(記念配10円)		80円	今後の状況を注視しつつ、修正すべき時点で速やかに開示	100円※

※当社配当方針である配当性向30%目安で計算しております。今後とも更なる株主還元の向上に努めてまいります。

参考資料

1．業績の推移（連結）

経営成績（連結）

（単位：百万円）

区分	2019年3月期 第1四半期	2020年3月期 第1四半期	2021年3月期 第1四半期	2022年3月期 第1四半期	2023年3月期 第1四半期
売上高	3,126	2,811	2,495	2,883	3,330
営業利益	335	154	43	209	320
経常利益	370	205	114	281	423
親会社株主に帰属する四半期純利益	262	129	77	218	291
純資産	9,692	9,968	9,966	10,140	10,945
総資産	16,263	16,277	15,744	15,405	17,105

経営指標（連結）

区分		2019年3月期 第1四半期	2020年3月期 第1四半期	2021年3月期 第1四半期	2022年3月期 第1四半期	2023年3月期 第1四半期
売上高営業利益率	（%）	10.7	5.5	1.7	7.3	9.6
自己資本比率	（%）	59.4	61.1	63.2	65.7	63.9
1株当たり純資産（BPS）	（円）	3,996.02	4,096.61	4,128.69	4,205.88	4,529.68

ご注意事項

- 本資料は情報提供を目的とするものであり、当社株式の購入や売却を勧誘するものではありません。
- また、掲載されている情報は、現時点で入手可能な情報に基づき、当社が独自に予測したものであり、リスクや不確定な要素を含んでおります。
- 従いまして、見通しの達成を保証するものではありません。当社の内部要因や当社を取り巻く事業環境の変化等の外部要因が直接または間接的に当社の業績に影響を与え、本資料に記載した見通しが変わる可能性があることをご承知おきください。
- 投資に関する最終的な決定は、利用者ご自身の判断でなさるようにお願いいたします。